

# デューイ著作集

John Dewey

## 第I期・全8巻

[総監修]

田中智志 (東京大学)

[監修]

佐藤 学 (学習院大学)

藤井千春 (早稲田大学)

小玉重夫 (東京大学)

松浦良充 (慶應義塾大学)

松下良平 (金沢大学)

森田尚人 (中央大学)

[編集委員会]

総監修者+

岡部美香 (大阪大学)

古屋恵太 (東京学芸大学)

高柳充利 (信州大学)

東京大学出版会

## デューイ著作集

### 第I期・全8巻

A5判・上製・横組・240〜320頁  
各巻定価(本体4,500〜5,200円+税)〈予価〉

●20世紀を代表する思想家であり、生前からこんにちまで哲学・教育学・政治学においてひろく不断の再解釈が試みられ、展開を触発しつづけるジョン・デューイ。その主要著作を厳選し、現代的な水準で新訳する著作集。

●各分野で定評ある研究者が、訳者解説、解題を執筆、デューイ思想の核心とそれぞれの著作の位置付けをあきらかにする。

	注 文 書		※もよりの書店へお申し込みください
●	全8巻申し込みます	(	セット)
①	哲学1『人間の自然本性と行為』ほか	ISBN978-4-13-014201-4	( 冊)
②	哲学2『論理学的理論の研究』ほか	ISBN978-4-13-014202-1	( 冊)
③	哲学3『経験と自然』	ISBN978-4-13-014203-8	( 冊)
④	哲学4『確実性の探求』	ISBN978-4-13-014204-5	<span>2018年9月刊</span> ( 冊)
⑤	哲学5『共同の信仰』ほか	ISBN978-4-13-014205-2	<span>2019年9月刊</span> ( 冊)
⑥	教育6『学校と社会』ほか	ISBN978-4-13-014206-9	<span>2019年1月刊</span> ( 冊)
⑦	教育7『明日の学校』ほか	ISBN978-4-13-014207-6	<span>2019年5月刊</span> ( 冊)
⑧	政治8『公衆とその問題』ほか	ISBN978-4-13-014208-3	( 冊)

[書店名] (取次番線)	[お客様のご住所・ご芳名]
	[電話番号]

東京大学出版会 〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29 TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991 http://www.utp.or.jp/

たまとまったかたちで翻訳されていなかったからである。本国のアメリカで南イリノイ大学出版局(Southern Illinois University Press)から全37巻の著作集(*The Collected Works of John Dewey, 1882-1953*)が刊行され、すでに20年前に完結していたことも、後押しとなっていた。ちなみに、ハイデガーの全集については、ドイツのクロスターマン社(Vittorio Klostermann)から全102巻の全集(*Heidegger Gesamtausgabe*)が刊行されるとすぐに、日本でも、翻訳全集の刊行が開始された。

なるほど、デューイの翻訳書は、すでに大正期から刊行されてきたが、どれも単発的なものであった。私は、過去のそうした翻訳書の成果を踏まえつつも、多岐にわたるデューイの思想に一通りのまとまりをもたせた、かつ読みやすさを意識した訳文の著作集、とりわけ後期の充実した著作をふくむそれを刊行できるなら、新たなデューイ思想を描く確かな足場になるのではないか、と考えた。

幸いにも、この企画について、多くの方々から賛同をいただき、2013年から著作の選定・調整、訳業の分担・依頼の作業に入った。ただ、思いのほか訳業・調整に手間取り、最初の配本にこぎつけるまでに多くの時間を要することとなった。この企画に参画してくださった皆様のご尽力に、衷心から敬意を表する。また、ワーキング・グループとして、本著作集に組み込むデューイの著作の選定・配列をはじめ、具体的な作業を一手に引き受けてくれた「デューイ翻訳著作集編集委員会」の方々にも、深甚の感謝を申しあげる。なお、本著作集は、当面、第I期として全8巻が刊行されるが、第II期についても、同じ巻数の翻訳を考え、準備を行っている。この著作集が、今後のデューイ研究、また哲学思想・教育思想の研究の礎にならんことを、心より祈念する。

総監修 田中智志 (東京大学大学院教授)

## 『デューイ著作集』の刊行に寄せて

アメリカの教育学者・哲学者として広く知られているデューイ(John Dewey, 1859-1952)は、ほぼ同時代を生きたドイツの哲学者、ハイデガー(Martin Heidegger, 1889-1976)と、好対照をなしているように見えるだろう。デューイはハイデガーよりも30歳年長であるが、二人は60年以上にわたり、同時代を生きている。どちらも、世界に広く知られているが、どちらも、相手に言及したことが一度もない。「プラグマティズム」と「存在論」という、水と油のような二人の思想の違いを考えれば、得心しそうになるが、おそらく、ことはそう単純ではないのだろう。

ともあれ、日本の教育学において、デューイの思想は、ハイデガーの思想に比べれば、はるかに大きな理論的主柱をなしていた。あの「大正新教育」を理論的に支えてきた思想の主柱の一つは、デューイのそれであったし、第二次大戦後から現代にいたるまで、日本の教育の大きな転換期においては、さまざまな人が、デューイの思想に触発されつつ、説得力あふれる教育論を展開してきた。有名な『デモクラシーと教育』『学校と社会』などは、今も教育学の基本文献である。

にもかかわらず、デューイの教育思想は、「問題解決に向かう学習」「民主主義を実現する教育」といわれるような、わかりやすいものではないし、その哲学思想も、「プラグマティズム」という言葉に収まるような、一意的なものではない。そこには、たとえば、ハイデガーが批判しながらも、迎え入れた形而上学的思考がふくまれている。デューイの教育思想も哲学思想も、いまだにその全貌がわからない、そして私たちを大切なものに向けて触発しつづける、豊かさそのものである。

さかのぼれば、『デューイ著作集』を企画し東京大学出版会に提案したのは、2011年の晩秋のころである。あれほど著名な人物でありながら、そして教育思想と哲学思想の両方にまたがる思想家でありながら、その主要な著作が読みやすいものとして、ま

## デューイ著作集

第I期・全8巻

John Dewey

### 1 哲学1『人間の自然本性と行為』ほか

「哲学復権の必要性」(The Need for a Recovery of Philosophy, 1917)

「哲学の再構成」(Reconstruction in Philosophy, 1920)

『人間の自然本性と行為』(*Human Nature and Conduct*, 1922)

### 2 哲学2『論理学的理論の研究』ほか

「デモクラシーの倫理」(The Ethics of Democracy, 1888)

「キリスト教の精神とデモクラシー」(Christianity and Democracy, 1893)

「心理学における反射弧の概念」(The Reflex Arc Concept in Psychology, 1896)

「「意識」と経験」(“Consciousness” and Experience, 1899)

「心理学と社会的実践」(Psychology and Social Practice, 1900)

『論理学的理論の研究』(*Studies in Logical Theory*, 1903)

「エマソン—デモクラシーの哲学者」(Emerson—The Philosopher of Democracy, 1903)

「実践的ということによってプラグマティズムは何を意味するのか?」

(What Pragmatism Means by Practical, 1908)

「哲学に対するダーウィニズムの影響」(The Influence of Darwinism on Philosophy, 1909)

「真理に関する手短な問答書」(A Short Catechism concerning Truth, 1910)

「真理の問題」(The Problem of Truth, 1911)

「哲学とデモクラシー」(Philosophy and Democracy, 1911)

### 3 哲学3『経験と自然』

『経験と自然』(*Experience and Nature*, 1925)

### 4 哲学4『確実性の探求』

『確実性の探求—知識と行為の関係についての研究』

(*The Quest for Certainty: A Study of the Relation of Knowledge and Action*, 1929)

### 5 哲学5『共同の信仰』ほか

「アメリカン・プラグマティズムの発展」(The Development of American Pragmatism, 1925)

「価値、オブジェクティブ・リファレンスと批評」(Value, Objective Reference and Criticism, 1925)

「感情的思考」(Affective Thought, 1926)

「教育における芸術—そして芸術における教育」

(Art in Education—and Education in Art, 1926)

「統合的パーソナリティ」(Corporate Personality, 1926)

「哲学と文明」(Philosophy and Civilization, 1927)

「構築と批評」(Construction and Criticism, 1930)

「絶対主義から実験主義へ」(From Absolutism to Experimentalism, 1930)

「質的思考」(Qualitative Thought, 1930)

「コンテキストと思考」(Context and Thought, 1931)

『共同の信仰』(*A Common Faith*, 1934)

「人間の自然本性は変化するのか?」(Does Human Nature Change? 1938)

『価値判断に関する理論』(*Theory of Valuation*, 1939)

「経験、知識及び価値—疑問への返答」(Experience, Knowledge and Value: A Rejoinder, 1939)

「時間と個性」(Time and Individuality, 1940)

### 6 教育1『学校と社会』ほか

『意志の訓練にかかわる興味』(*Interest in Relation to Training of the Will*, 1896)

「教育の基礎をなす倫理的原理」(Ethical Principles Underlying Education, 1897)

「教育に関する私の信条」(My Pedagogic Creed, 1897)

「大学附属小学校の組織編制に関する計画」

(Plan of Organization of the University Primary School, 未公開)

『学校と社会』(*The School and Society*, 1899)

「教育的状況」(The Educational Situation, 1901)

『子どもとカリキュラム』(*The Child and the Curriculum*, 1902)

「社会の中心としての学校」(The School as Social Centre, 1902)

「教育における実践に対する理論の関係」

(The Relation of Theory to Practice in Education, 1904)

### 7 教育2『明日の学校』ほか

『教育における道徳的原理』(Moral Principles in Education, 1909)

『教育における興味と努力』(Interest and Effort in Education, 1913)

『明日の学校』(Schools of To-Morrow, 1915)

### 8 政治1『公衆とその問題』ほか

「公衆とその問題」(The Public and Its Problems, 1927)

「個人主義—その古いものと新しいもの」(Individualism, Old and New, 1929)

「リベラリズムと社会的行為」(Liberalism and Social Action, 1935)

「デモクラシーはラディカルである」(Democracy Is Radical, 1937)

「自由と文化」(Freedom and Culture, 1939)

「創造的なデモクラシー—我々の前にある課題」

(Creative Democracy-The Task before Us, 1939)

### 第I期刊行予定

[第1回配本／2018年9月]

**(通巻①)** 哲学4『**確実性の探求**』

加賀裕郎(同志社女子大学)訳・田中智志(東京大学)解題

[第2回配本／2019年1月]

**(通巻②)** 教育1『**学校と社会**』ほか

上野正道(上智大学)訳者代表・藤井千春(早稲田大学)解題

[第3回配本／2019年5月]

**(通巻③)** 教育2『**明日の学校**』ほか

上野正道(上智大学)訳者代表・佐藤学(学習院大学)解題

[第4回配本／2019年9月]

**(通巻④)** 哲学5『**共同の信仰**』ほか

小玉重夫(東京大学)訳者代表・解題

[以下続刊]

**(通巻①)** 哲学1『**人間の自然本性と行為**』ほか

岡部美香(大阪大学)訳者代表

**(通巻②)** 哲学2『**論理学的理論の研究**』ほか

古屋恵太(東京学芸大学)訳者代表

**(通巻③)** 哲学3『**経験と自然**』

松下晴彦(名古屋大学)訳

**(通巻④)** 政治1『**公衆とその問題**』ほか

生澤繁樹(上越教育大学)訳者代表

### 第II期刊行予定

教育3『**民主主義と教育**』(1916年)

教育4「**経験と教育**」(1938年)ほか

教育5「**我々はこう考える**」(1933年)ほか

哲学6『**倫理**』(1932年)

哲学7『**経験としての芸術**』(1934年)

哲学8『**論理**』(1938年)

政治2 未刊行著作集